BH79J289H04

MITSUBISHI ELECTRIC

三菱電機パッケージエアコン

システムコントロール 工事説明書

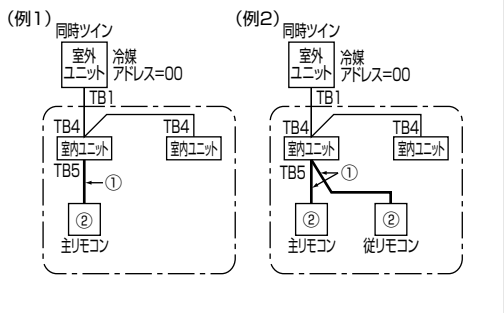
販売店・工事店様用

冷媒R32/R410A対応

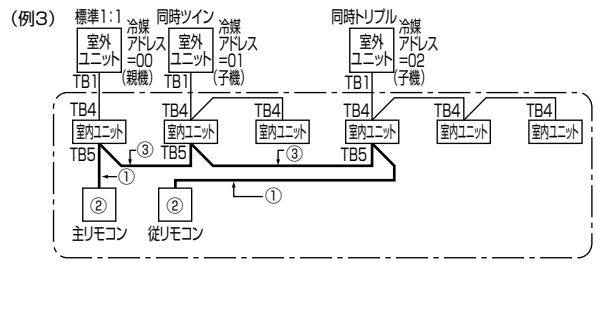
PL-ZRP・EA5　PC-RP・HA13
PL-ERP・EA5　PM-(H) RP・FA13
PL-RP・JA13

■伝送線配線 リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って行ってください。

冷媒系統ごとにリモコンを接続する場合
（標準1：1、同時ツイン、同時トリプル、同時フォー）



異冷媒系統グルーピングする場合



記号	名称
TB1	端子盤(室外：電源および内外接続線)
TB4	端子盤(室内：内外接続線)
TB5	端子盤(リモコン伝送線)

※冷媒アドレスの設定は、室外ユニットのディップSWにて行います。（詳細は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。）
※図中の①，②，③の番号は下記①，②，③の注意事項に対応しています。

① リモコンからの配線

- 室内ユニットのTB5（リモコン用端子盤）へ接続します。（極性はありません。）
- 同時マルチタイプの場合には、いずれか1台の室内ユニットTB5にのみリモコンを接続してください。異なる機種の室内ユニットが混在する場合は、各室内ユニットが持つ全ての機能（風速・ベーン・ルーバー等）を操作することができます。

② 1グループに2台までリモコンが接続できます。

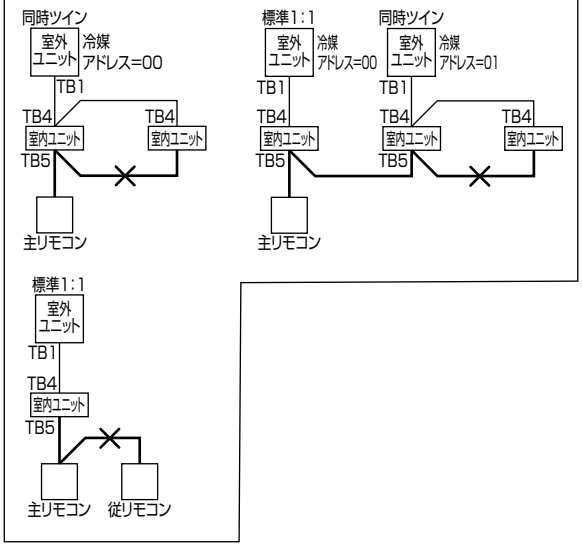
- 1グループにリモコンを2台接続した場合、主リモコンと従リモコンの設定を必ず行ってください。
  リモコン主従設定方法は、リモコンの据付工事説明書（設定編）をご覧ください。
  ※1グループのリモコンが1台であれば、主リモコン設定（初期設定）から変更は不要です。

③ 異冷媒系統でグルーピングする場合

- リモコン配線によりグルーピングを行います。グルーピングする各冷媒系統の任意の室内ユニット1台とリモコン線にて渡り配線してください。
- 同一グループ内にて異なる機種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能（風速・ベーン・ルーバー等）の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機（冷媒アドレス=00）としてください。
- この場合、[ ] で囲まれた全室内ユニットを1グループとして制御します。
- MAリモコンでは最大16冷媒系統を1グループとして制御可能です。
- パワーシェア運転・スマートデフロスト運転を採用する場合は最大4冷媒までです。機能の詳細は室内ユニット取扱説明書をご覧ください。
  ※リモコンからの配線は上記①②の条件を満たしてください。

確認

- 同一冷媒系統の室内ユニットTB5への渡り配線は禁止です。渡り配線した場合、システムが正常に動作しません。
- リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子盤には配線は、1本しか接続できません。



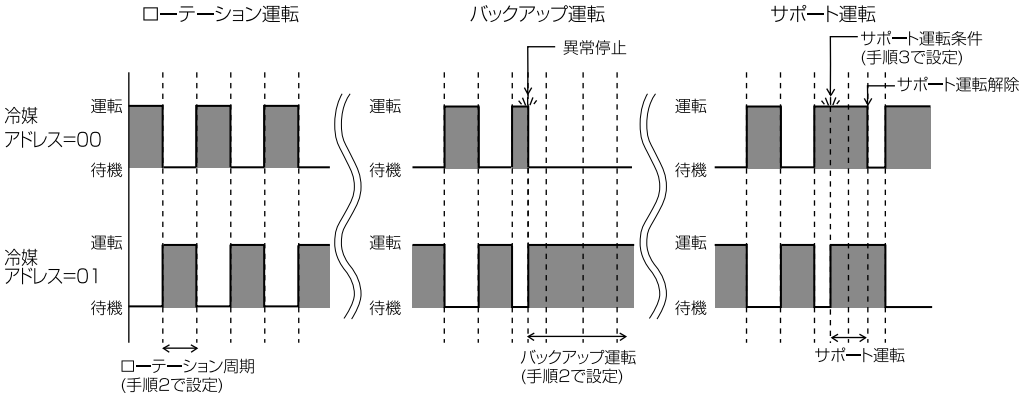
裏面へつづく

■リモコンコードの総延長は500mです。ただし、リモコンを2台接続（例2）、（例3）でご使用の場合は200m以下にしてください。

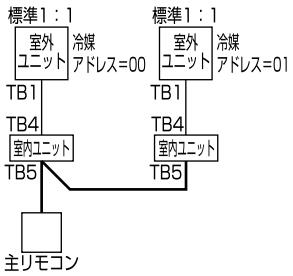
- 0.3 ㎜の電線または2芯ケーブルを使用してください。（現地手配）
- 誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルおよびシールドケーブルの使用は避けてください。
- リモコンコードはアース（建物の鉄骨部分または金属等）および電源配線・内外接続線からできるだけ離して施工してください。

■ローテーション設定

- MAスマートリモコンにより右図のような2冷媒系統の標準1:1システムに限り、ローテーション運転やバックアップ運転の設定が可能です。
- ローテーション運転は、各冷媒系統を交互運転させ、運転時間の均一化を図ることができます。
- バックアップ運転は、1冷媒系統が異常停止した場合でも待機中の冷媒系統が起動し、空調を継続することができます。
- サポート運転（パワフルツイン冷房）は、1冷媒系統では能力が不足する場合に、自動的に待機中の冷媒系統が起動し、補助運転を行います。



ローテーション設定を行う場合



※リモコンを2台接続する場合は、リモコンの主従設定を行ってください。
※設定は主リモコンからのみ可能です。

① 設定手順

【手順1】リモコンを『ローテーション設定』に切換えます。

- サービスメニュー画面で『ローテーション設定』を選択し、決定 ボタンを押します。

【手順2】ローテーション運転を設定します。

- F1 ボタンで「ローテーション」を選択します。
- F2 、F3 ボタンでローテーション周期またはバックアップを選択します。
  選択項目:無し、1日、3日、5日、7日、14日、28日、バックアップのみ
  ※1日～28日を選択した場合は、バックアップ機能も有効となります。
  ※「バックアップのみ」を選択した場合は、冷媒アドレス=00系統がメインとして運転し、冷媒アドレス=01系統がバックアップとして待機状態となり、ローテーション運転されません。

【手順3】サポート運転を設定します。

- F1 ボタンで「温度差サポート」を選択します。
- F2 、F3 ボタンでサポート運転が動作する「吸込み温度と設定温度の差」を選択します。
  選択項目：無し、+4℃、+6℃、+8℃
  ※サポート運転は冷房設定時のみ有効です。（暖房、ドライ、自動設定時は動作しません。）
  ※サポート運転はローテーション設定で「無し」以外に設定した場合に有効になります。

【手順4】設定更新

- 決定 ボタンを押し、設定を更新します。

② リセット方法

- F4 ボタンでローテーション運転時間がリセットされ、冷媒アドレス=00の系統からの運転となります。
  ※冷媒アドレス=01の系統がバックアップ運転中の場合は、冷媒アドレス=00が運転に戻ります。